

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年九月度 入選句（投稿総数千九百四十九句・一般投句数七百八句）

特選

ひまわりとひまわり柄のワンピース 大垣市 三輪 育子

俳句は思いや情景を「もの」に託せ。「こと」よりも「もの」を詠めと言われている。この句はひまわりとその柄のワンピースと言うまさに「もの」だけで表現されている。これだけでひまわりの前に立つ女性が見えてくる。明るく元気な人であろう。イメージが広がる。

伊吹嶺のよく見ゆる朝大根蒔く 安八郡神戸町 高橋 日出美

八月の下旬になるとそろそろ大根の種を蒔く時期だ。よく耕された畝にいていねいに種を蒔いてゆく。

伊吹山はこの地域のシンボルの存在で、何かにつけて山を仰ぎ心の支えとしている人が多い。伊吹山に見守られながら農作業ができることに感謝している。

夕立や琵琶湖に空を混ぜ合はす 岐阜市 勝 千紘

鏡のような湖面に青空や白い雲がくつきりと映っている。それが急に曇ってきて大粒の雨が激しく降り出した。夕立である。湖面は雨で波立ち何も映らなくなってしまう。それを「湖に空を混ぜ合はす」と詠った。なるほどと思わせる表現である。

秀逸

天高く茶髪漁師の太き腕 岐阜市 島 めぐみ

雁を待つ湖北しづかに波の綾 大垣市 野村 多佳子

東の間の風とは言へど秋はじめ 安八郡輪之内町 野村 照子

萩咲くや生家に今も外厠 大垣市 樋口 絹子

児と話すやうに向日葵うつむけり 愛知県名古屋市 舘野 茂子

果実酒の彩深めゆく良夜かな 養老郡養老町 田中 秀子

女子力に何を乗せるか冷や奴 神奈川県鎌倉市 本山 ねじばな

親の振り見てゐて子ども踊り出す 大垣市 町野 眞佐子

夜の秋や甘くなるまで嘯むごはん 大垣市 矢橋 郁子

道しるべ英語も付して花野道 兵庫県神戸市 岸下 庄二

入選

コスモスの色とりどりに日照雨かな
 灯の入りて囃す童ら地蔵盆
 つづれさせ厨に手提げかけしまま
 読経の声に張りある迎へ盆
 好きな物いっぱい載せてかき氷
 児に秋日言葉きらきらこぼしおり
 八月の水ほとばしるむすびの地
 廃校の風と遊べる秋桜
 口重き夫の笑顔や栗ごはん
 蝉時雨導かれ行く大師堂

岐阜市 伊藤 瑞実
 大垣市 伊藤 有紀
 大垣市 佐藤 すみ子
 大垣市 多和田 一徳
 京都府城陽市 椎原 園美
 東京都世田谷区 関戸 信治
 静岡県浜松市 中川 正男
 大垣市 今津 正元
 不破郡垂井町 中嶋 笑子
 大垣市 加藤 祐子

入選

母の手のぬくもり伝ふ夜の秋
 体ごと話す幼児や丸裸
 どの顔も歪みてみゆる西日かな
 水揚げの秋刀魚荷台を零れ落つ
 虫の夜や次の頁に置く葉
 開きては眺める形見秋扇
 ポケットをかへせば砂や夏惜しむ
 高原の空独り占め今朝の秋
 歳時記の転がる部屋や月涼し
 雨後匂ふ九月の雑木林かな

大垣市 平野 ヒサエ
 大垣市 鶴田 信子
 大垣市 永井 田鶴子
 岐阜市 堀江 美州
 大垣市 棚橋 みさを
 大垣市 町野 眞佐子
 大垣市 矢橋 郁子
 安八郡神戸町 斉藤 美津子
 大垣市 澤井 国造
 愛知県名古屋市 岩田 勇

選者吟

一本のロープに縋る秋出水

武直